

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## この夏、親子での学習会

会津若松市立第二中学校

3年 棚木 響平

「お父さん、お母さん、これから税金のクイズを出すから答えて。」と、僕は学校で配布された学習資料を手にして言った。結果、父も母もQ5の教育費の問題を間違え、「えー、そんなに多いの。」と、金額の大きさに驚いていた。全問正解できなかった僕からしたら、何もかも知らないことばかりだった。この後、「私たちの暮らしと税」の冊子を見ながら、僕たち親子の税についての学習会が始まった。

冊子のページに従って読み進み、僕が分からないところを父や母が説明してくれた。父や母も説明をしながら、「あー、そうなんだ。」とか、「これは、大事だな。」など、感心しながら読んでいた。『税金はなぜ必要か』、今まで考えたことがなかったことだけれど、この冊子を通して、税金の種類や税金の仕組み、税金の使われ道やこれからの社会と税についてなど知ることが出来た。さらにはホームページのビデオライブラリーで税がなくなった場合の社会を見たことで、税金について関心を持つことが出来た。

冊子を読み終えて、父が僕に「税金で何か作ってほしいものはあるか。」と質問をしてきた。僕は返事に困ったが、「学校の教室にエアコンが欲しいかな。」と答えた。それを聞いてすぐに母が、「そうだよね。授業参観の時、エアコンがなくて観てるだけなのに暑くて、勉強するには辛いと思ったもの。」と言った。さらに側にいた姉が、「えー、中学校にエアコンないの。高校にはあるよ。」と教えてくれた。「それなら、もうすぐ高校生になるし、エアコンはいらないや。」

と僕が言ったら、今度は父が、「高校のエアコンは使える時期と予算があって、暑い時に使えなかったりするんだぞ。」と返してきた。僕は心の中で、『税金がうまく使われて、学習環境が良くなればいいな。』と思った。

私たちの一番身近な税、それは消費税であると思う。その消費税がもうすぐ、8%から10%に上がることになる。今までは、お金を多く取られていやだなと思っていたけれど、私たちの生活をより良くするためのお金に変わるのだと考えが変わった。少子・高齢社会に生きる将来の自分が、日本は税金がうまく活用されている住み良い国だと言えているよう、税や日本の政治について関心を持って生活していきたいと思った。